

大洗 議会だより

目次

議会広報編集委員会視察報告

福岡県 大刀洗町議会 …………… 2

原子力安全調査特別委員会視察報告

鹿児島県 いちき串木野市

川内原子力発電所…………… 5



先進地への視察
～活発な委員会活動を～

No.204
特別号
2023.5.17

議会広報編集委員会

視察報告

2月9日(木)

訪問地：福岡県

たちあらい
大刀洗町議会

報告者

委員長 櫻井 重明

当初、大刀洗町を研修先に選んだ理由は、表紙をはじめとした写真の使い方や写真と連動した町民へのアンケートや特集記事に魅力を感じてのものでした。

実際に視察研修を終えて、大刀洗町の広報委員会の皆さまの発行までの取り組みや、思いを知ることで更に魅力のある議会広報紙であると感じました。

広報委員が案を積極的に出して話し合い、一つの企画を導き出し、先ずは始めてみる。そして、始めたことをブラッシュアップしながら

らも、継続し更に良いものへと発展させていく努力を惜しまない。

その根底にあるのが、町民の皆さまに楽しく読んでいただきながら必要な情報をお伝えしたい、といった町と町民を愛する思いであると感じました。

私たち大洗町議会広報編集委員も大刀洗町の議員さんと思いは変わりません。これからも新たな企画を提案し、町民の皆さまに楽しく読んでいただける議会広報紙づくりに励んで参ります。



たちあらい議会だより について

「たちあらい議会だより」は、全国町村議会議長会主催の町村議会広報全国コンクールにおいて、連続入選している議会広報紙です。

報告者

副委員長 石山 淳

町の規模や予算等が我が町とほぼ同じで、特徴的な議会モニター制度について説明がありました。

モニターは町民8名で構成され、任期は2年、提言や意見を議会運営に反映させ議会活動の向上に繋げています。議会運営委員会が所管をし、定例会ごとに年4回懇談を行い、一般質問や政策の内容についても議論をするそうです。

紙面では「あの質問どうなったコーナー」があり、各議員からの一般質問で執行部より「検討します」と答弁のあった事項を追跡レポートするという内容で、課題が解決されているのかどうかかわかります。その他に移住されてきた方への取材や、新成人者を紹介する新有権者の声の企画も好評のことでした。

紙面と住民、議会と住民の関わりを意識した紙面づくりが理解できます。我が広報委員会でもこの点を重視していますが、更に皆様との関わりを考案した紙面づくりをしていきますので御協力をお願いいたします。

報告者

委員 柴田 佑美子

町の面積・人口・議員定数など類似点があり、議会広報の取組みでは町村議会広報全国コンクールにて連続入選をされ、広報公聴に先駆的な取組みを続けている大刀洗町議会を視察して参りました。

紙面づくり企画では、住民との双方向型の情報として、報告会、議会モニター、新有権者の声、傍聴席アンケート、予算審議の「私もひとこと」など住民の声を広報紙に掲載する形を取っています。意見交換会では、インタビュア時の苦労や変革しながら取組みを続けている内容を伺いました。

読者の視点に立ち、平易で読みやすい紙面づくりを」との編集方針に基づき作られていることが感じられます。

今回の視察で得られた内容を参考にしながら、今後、更に「おおあらい議会だより」が町民の皆様にとって、より身近な議会広報紙になるよう取組みを進めて参ります。



大刀洗町議会の議会広報委員会の皆さまから説明を受けました

福岡県大刀洗町議会を視察いたしました。大刀洗町議会の議会広報紙は全国町村議会議長会主催の広報コンクールで、平成27年度から連続して入選しています。町民の方にも興味を持って見ていただいている広報紙でもありました。

広報紙の編集方法に秘訣があるのかと思いきや、議会の改革を進めることで、町民の皆さんに関心を持ってもらえていることが、一番の秘訣でありました。議会改革は我が町議会も取り組んでおり、

実行している内容に大差はありません。しかしながら継続できているかどうかには大きな違いがあると感じました。

大洗町議会では議会報告会や日曜議会など、人数が集まらないと

いった理由で町民が議会を知る、

また意見交換の場の活動を取り止めてしまいました。このことは大変マイナスであり、要因のひとつは議会改革開始より年数が経過すると共に議員も選挙ごとに入れ替わり、議会改革当時の議員も少数になってきました。取組み方や考え方の違いが大きく影響していることは否めません。

今後は、町民の皆さんと対話できる環境を考えていくことが大切であり、強いては広報紙への関心（イコール）議会への興味に変わる取組みが必要であると感じました。

熊本県 長洲町議会 広報調査特別委員会6人が視察研修に訪れました

人口：15,414人
(令和5年3月末現在)

面積：19.44km²

訪問日：令和5年2月16日（木）

視察の目的：議会広報の編集体制等について

対応者：飯田議長

議会広報編集委員会

(櫻井委員長、石山副委員長、柴田委員、今村委員)



原子力安全調査特別委員会

視察報告

2月14日(火)～15日(水)

訪問地：鹿児島県

いちき串木野市

川内原子力発電所

報告者

委員長 和田 淳也

今回、私たち原子力安全調査特別委員会は九州電力(株)川内発電所及びいちき串木野市役所を訪問し、原発再稼働後の安全管理及び施設見学を行いました。

まず、東日本大震災を経験していない九州地方では、原発の安全性に対して、さほど関心が少ないように感じました。津波被害が少ないとされる東シナ海に面し、標高も十分であるということもあるのでしょうか。

非常時の避難計画もなかなか進捗していないようでした。原発構

内の施設や備品は震災や高潮対策のほかに竜巻対策が施されています。頑丈な鎖やワイヤーで固定されており、いざ有事の際には、鎖やワイヤーが素早く外せるのか心配でありましたが、その辺の対策は充分取られているのでしょうか。

施設内の視察は車窓からでありましたが、冷却海水の取水口や排水口は更なる省エネや発電などに利用できるのではないかと思うほど規模の大きい物がありました。

この場所は、東日本大震災直後に原発立地町村の経済的影響を視察

調査にきましたが、その時は全く経済状況が悪く、町も灯が消えたようだったのを覚えています。現在は原発再稼働のおかげで経済的には回っているようです。

やはり、あるべきところにあるべきものが無いと人間社会の経済はなかなか成り立たないようです。安全性と経済の両立を探りながら、あるべきところのあるべきものを有効利用して行くことが、今後の日本経済にとって重要であると感じました。



いちき串木野市から説明を受けました

報告者

副委員長 菊地 昇悦

実効性のある原発事故時の避難計画は策定できるのか。東日本大震災後、国内初の再稼働を始めた川内原子力発電所30km圏内の鹿児島県いちき串木野市を訪ねました。

人口約26,000人。市議会は原則40年の運転期間を守り、再生エネルギーの加速化を求める意見書を上げています。同市の避難計画は、早期の再稼働に合わせた

のか、安心・安全に疑問を感じるどころもあります。バスで避難する際、バス停で待機する地区指定もあります。一時避難所の地区公民館など146カ所、他市の避難所先は85カ所、市職員の配置など対応可能なか気になります。

その後、道路脇に立つ「原発反対」の看板を見ながら川内原子力



川内原子力発電所の概要説明

発電所に入り、担当者から説明を受けました。今、安全対策工事を進めていて、どうしても手が加えられないところがあるとのことでした。どこなのか語りませんでした。が、経年劣化した原子炉本体を想像でき、その瞬間、東海第二原発を思い浮かべ、再稼働させることに改めて考えさせられる研修でした。

報告者

委員 勝村 勝一

川内原子力発電所の視察研修、今、日本の原子力発電所の現状は西日本関西地区のみの稼働で10基（日本の原子力発電所の数、53基以上）のみです。



発電所のしくみについて

平成15年以前に全国で原子力事故が相次ぎ、原子力発電所の事故後の第一号として、平成15年に川内原子力発電所が発電を開始して以来、令和5年の今日まで、日々の定期点検を厳格にして事故もなく原子力発電が行えているのは、川内原子力発電所職員の日頃の努力の積み重ねであると感じました。今後も、継続して原子力発電所の未来と資源の乏しい日本のために頑張ってくださいよう願うばかりです。20年前、私は川内原子力発電所を稼働寸前の時に一度、視察研修をしたことがあります。今回の原子力安全調査特別委員会の視察研修により、改めて原子力発電所の再認識をすることができました。

委員 今村 和章

国内では電気料金の高騰により、企業ばかりでなく一般家庭にも大きな影響を与えています。政府が原子力発電所の再稼働へ舵を切ったのは、ご承知の通りです。

今回の視察先であります、鹿児島県いちき串木野市は川内原子力発電所の近隣に位置し、原発再稼働のため「原子力災害住民避難計画」の策定をしました。茨城県で言えば東海第二原発と大洗町との関係に大変類似しています。大洗町も避難計画を策定する必要があり、市担当職員へ策定に対しての質疑を行いました。あまり原発事故への警戒心は無く、東日本大地震を経験しているわが町との原発事故への関心の違いを実感しました。

私は原子力事業に対して反対ではありません。有効活用できるエネルギー資源のひとつであると思っていますが、東海第二原発のような年数経過している原発は稼働するべきではないと感じています。自家用車を60年乗る方はどのくらいいるでしょうか。最新の車を求める方が大半だと思います。原発も小型化され、最新のもの（HTTRなど）があります。古い原発に改良や修理の予算を投入するのであれば、最新で安全性が高く発電できるものにシフトしていくべきと考え、県民全体の安全性の向上に繋がると思います。

原子炉建屋模型



原子炉容器模型



原子炉格納容器カットモデル

今回、我々原子力安全調査

特別委員会は、東京電力福島

第一原発事故後にできた新規

制基準（原子炉等の設計を審

査するための新しい基準）の

下で、最初に再稼働した川内

原子力発電所及び、大洗町と

同じ緊急時防護措置を準備す

る区域（UPZ）に位置する

自治体である、いちき串木野

市の避難計画について調査を

行いました。

昨年末に国はエネルギーの

安定供給への対応と脱炭素社

会の実現を両立させるための

基本方針を打ち出しましたが、

原発の再稼働については、慎

重に向き合わなくてはなりま

せんし、避難計画は作るだけ

でなくその実効性などが問わ

れています。

いちき串木野市の原子力災

害住民避難計画は、川内原子

力発電所での原子力災害にか

かる市民などの避難等の防護

措置を実施するために必要な

事項がまとめられていました。

事故発生時における市民の

具体的な対処法のほか、地域

によって避難先が分かれてい

ること、避難先各自治体の避

難所までの詳細な経路が示さ

れていること、原子力災害の

規模、風向等により、防護措

置の内容や避難対象区域が限

定的となることなど細かくま

とめられていました。

避難先である南九州、鹿児

島市、指宿市の南方面には原

則自家用車とされています

が、バスでの避難の場合にはそ

の用意を県等が行うこととなっ

ており、バスの台数確保はどの

地域においても課題の一つのよ

うであります。

また、市では、関係市町、機関、

鹿児島県と共に原子力防災訓練

を実施しており、3,500名

が参加するその大規模訓練で得

た教訓や成果は、様々な部分で

生かされているそうです。

町をはじめ、東海第二発電所

近隣自治体では独自に避難訓練

等は実施しているものの、広域

的な避難訓練は実施されていな

いことから、広域的避難訓練は

関係機関の連携強化や地域住民

の防災意識の向上に有効ではな

いかと感じました。

委員 小沼 正男

令和5年 第2回議会定例会のお知らせ

令和5年6月12日(月) 開会を予定しております。

◆会期日程・審議内容等、詳細につきましては、週報、ホームページ等にて改めてご案内いたします。

大洗町議会ホームページ

議会の会期日程等のお知らせや議会活動のほか、議会のしくみなどについて掲載していますので、ぜひご覧ください。

大洗町議会

検索